

茨城県

育成会だより

第 139 号

発行日 令和元年 12 月 10 日
 発行 一般社団法人
 茨城県手をつなぐ育成会
 編集 広報委員会
 事務局 〒310-0851 水戸市千波町 1918
 茨城県総合福祉会館内
 ☎ 029-243-3838
 FAX 029-243-3854
 URL <http://www.ibaikuseikai.com/>
 e-mail iba-ikuseikai@bz03.plala.or.jp



**子どもからお年寄りまで安心して過ごせる
地域社会の実現を目指して**
特定非営利活動法人 S M S C 理事長 根本 敏宏

当法人は、「障害があっても安心して過ごせる地域社会を実現する」というビジョンのもと、稲敷市で障害者支援事業を開始するために、特定非営利活動法人として平成24年に設立しました。S M S Cでは、サポートシェアハウスいなしき（共同生活援助事業）、おんらが村（就労移行・継続支援B型事業）、まいる（相談支援事業）を運営しております。おんらが村での作業訓練として、検品・加工作业や農作業、農家や工場などでの施設外就労、地域の困ったを解決する猫の手商会など、多様な作業を行なうことで、ご本人のご希望や能力に合わせた支援をしております。

また、これまでの障害者支援を通して、障害者と貧困の課題は密接に関わっていると感じたので、稲敷市の委託事業として、生活困窮者世帯の子どもの学習支援事業てらこむを開始しました。

そして、平成31年3月8日に稲敷市と包括的な地域福祉事業の連携に関する協定を締結し、令和2年4月に廃校を活用した「みんなの学校プロジェクト」を開始する予定です。このプロジェクトは、子どもからお年寄りまで安心して過ごせる地域社会を実現するというビジョンのもと、障害者・高齢者・児童等の総合的な福祉サービス事業と地域交流を行う多世代・多属性交流型の地域生活拠点事業を目指しています。

福祉と地域が交流し混ざり合うハブになることで、共生できる地域社会を作っていきたいと思っています。

（連絡先）稲敷市浮島40664 電話：029-0998-3343(50)

令和初の「手をつなぐ育成会茨城大会」が開催される

取り巻く環境は大きく変動 — 矢野会長語る

10月23日、久しぶりに水戸に青空が戻りました。ここしばらく短期間に、台風15号、19号が茨城県も襲い、とくに19号によって県北は甚大な被害を受けました。開始前の受付周辺では、「お会いするの1年振りですね」とか、「台風ひどかったね」というような会話を交す光景が、あちこちで見られました。その台風の後始末が各地で進む中、「第57回手をつなぐ育成会茨城大会」が、10月23日（水）10時から、県総合福祉会館コミュニティホールで約250名の参加者を集めて開催されました。



主催者あいさつの矢野会長

◎大会主題とスローガン

主題 あたりまえに暮らせる社会の実現
自立支援と就労支援の推進
本人の権利擁護と意思の尊重

スローガン 「つなげよう あなたの手 わたしの手」

開会のことば、「手をつなぐ母の歌」斉唱に続いて、前半の部の式典に入りました。冒頭、主催者あいさつを県育成会矢野会長が行ないました（後述）。次に、県知事表彰（1名）・育成会会長表彰（9名）がありましたが、栄誉の受賞者は次の方々です（敬称略）。

知事表彰：吉川佳代子（県育成会理事・潮来市障がい者児親の会会長）

会長表彰：県育成会貢献者 大久保 淑子（東海村）

単位育成会貢献者 飯田 弘子（ひたちなか市）

単位育成会貢献者 小森 タミ子（常陸大宮市）

単位育成会貢献者 押田 睦美（かすみがうら市）

単位育成会貢献者 萩原 淑子（かすみがうら市）

支援者 沼田 とくえ（水戸市）

本人功労者 池野谷 慎（常陸太田市）

本人功労者 矢口 哲也（古河市）

本人功労者 染谷 正（古河市）



会長表彰を受ける萩原 淑子さん

受賞の皆さん、おめでとうございます。これからも、それぞれの立場でますますご活躍されることをお祈りいたします。

表彰の後、県知事（代理）および水戸市長（代理）から、それぞれ、障害者福祉政策の主要点に触れたうえで、さらに、県育成会ならびに表彰された本人やその家族に対して、暖かい、力強い激励のことばをいただきました。そのあと受賞者を代表して古河市の矢口哲也さんが謝辞を述べました。最後に、大会宣言案を飯村副会長が格調高く読み上げ、全員の賛同の拍手でこれが採択されました。小休憩ののち、次の講演会に移りました。

《 矢野会長あいさつの要旨 》

- ・このたびの台風19号の被害にあわれた方々に、心からのお悔みとお見舞いを申し上げます。
- ・障害者本人や家族の高齢化に伴い発生する「親なきあと」の問題に対しては、地域生活拠点を中心とする総合的な支援体制が必要である。
- ・近年、障害者福祉の法律や制度が整備されつつあるが、障害者が地域で当たり前で暮らせるため、福祉関係者には、私どもも育成会活動により一層のご理解・ご支援をお願いします。
- ・育成会会員の減少傾向に対しては、とくに若い世代の方々に育成会の大切さや必要性を理解いただくため、一段の努力を払ってまいります。
- ・私どもを取り巻く環境は大きく変動しつつある。この変動に対応すべく、私たちの意識改革を図っていきたい。

「障害者の地域生活支援」に求められるものは何か？

福岡寿氏 — 講演会で語る

大会の後半（10時50分～）は、福岡寿氏による「障害者の地域生活支援」と題する講演でした。この講演を楽しみに遠くから大会に参加した方も多かったのではないのでしょうか。初めて福岡先生の話聞く方にとっては、身振り手振りで早口の語りは、最初はついていくのに精一杯ということもあるでしょう。多くの方は、多分、二度三度と聞いたことがあるでしょうから、しっかり理解しようと耳を傾けたに違いありません。

福岡氏の経歴は、昭和56年東京大学文学部卒業と同時に長野県の中学教師となり、4年後に知的障害者施設「長峯学園指導員」となり、以後障害福祉の道を一筋に歩む...（以下省略）。これまでの役職・委員会等の正式な肩書は数えきれないことですが、本日の肩書は「日本相談支援員協会 顧問」でした。

さて、90分にわたる、長く深い“福岡節”の一部始終をここで伝えることは、私の力に余るので、私のメモと提供されたレジメとを基に、以下のとおりまとめました。福岡氏の著書は多数ありますが、参考までに1冊のみ最後に提示しますので、ぜひお手元に1冊を...。

（土浦市手をつなぐ育成会 渡辺 征）



“福岡節”で語る



“福岡節”で参加者を引きつける

《 講演の主要点 》

グループホーム（GH）の制度化：平成元年（1989年）のグループホームの制度化は、障害者福祉に大きな変化を与えた。入所施設でもなく、家族同居でもない生活の場が用意されたことは、多くの人の暮らしの選択肢を広げた。平成15年（2003年）の支援費制度から広がりを見せていった、生活の場の支えとしての居宅介護（ホームヘルプ）は、GHの大きな武器となった。

地域定着支援：平成24年（2012年）度からの地域定着支援（地域相談支援）、平成30年（2018年）度からの自立生活援助（GHや入所施設から退所し単身等で暮らす人を定期的に訪問して、生活の困りごとをいっしょに解決するサービス）などは、入所施設やGHでなくても、安心感を持って地域の暮らしを継続していくための支援として、今後ますます必要性が増していくはずである。

障害者優先の考え方：①「生活支援サービス」については、親の都合のみを聞いて周囲が動いている場合が多いが、本人の都合・希望を聞くことを優先させるべきだ。②GHの選択でも、親・施設が勝手に決めるのではなく、本人にいくつかの選択肢の中から選ばせることが必要。③障害者一人ひとりにつき、4半期に1回は、本人を中心に事業者・関係者が集まって検討会を持つ——そういう体制を構築することが望ましい。

相談支援者の立場：相談支援者の立場としては、「相談者が今の生活と違うああいう生活がしたいと思ったら、実際の暮らしを体験してみることができるような体制づくりが必要だ。困ったときは、いつでも相談に駆けつけてくれる支援者がいる」という状況を作ってあげたいと思う。

参考資料：福岡寿著 「相談支援の実践力——これからの障害者福祉を担うあなたへ」
中央法規出版（2018年刊） その他著書多数

ノーマライゼーションの原点に立って！

第53回関ブロ埼玉大会に参加して —

NPO 法人茨城県あすなろの郷手をつなぐ育成会 青木 礼子

11月9日（土）、埼玉会館において、第53回手をつなぐ育成会関東甲信越埼玉大会が開催されました。式典の前に、台風・豪雨災害で亡くなられた方たちのご冥福を祈り黙祷を捧げました。埼玉県内でも、障害者施設が冠水して仮設で生活している方がいるそうです。

午前中に大会式典・「手をつなぐ母の歌」斉唱・全体会が催されました。全国手をつなぐ育成会連合会久保厚子会長の主催者挨拶の中に、宮内庁も手をつなぐ育成会の賛助会員になられていて、『手をつなぐ』を天皇皇后両陛下が購読されているという報告がありました。大会宣言の中には、「知的障害者の父・糸賀一雄氏の『この子らを世の光に』のもと、この地埼玉に集ったわれわれは、知的に障害があっても幸せに生きられる社会を目指し努力を続ける」という言葉が盛り込まれました。

午後からは、第1分科会「これからの育成会～ネット社会の今だから人と人との繋がりを大切にしたい！～」、第2分科会「権利擁護を考える。～やまゆり園で散った命から～それでも減らない虐待・差別をどう乗り越えるか！～」、第3分科会「共生社会で生きることを支えるもの～計画相談、成年後見制度、地域の理解啓発～」の3分科会が開催されました。全体の参加者は、829名でした。本人会には160名の参加があり、鉄道博物館に移動し、昼食をはさみ館内を自由に見学しました。たくさんの電車で囲まれ楽しい時間を過ごすことができたとのことでした。

来年は、10月24日（土）、千葉市の開催になります。講演は、元厚生労働省事務次官の村木厚子氏です。本人会は、千葉モノレールに乘車し、航空科学博物館見学です。多数の参加をお待ちしています。

貴 重 な 時 間

— 第3分科会に参加して

NPO 法人茨城県あすなろの郷手をつなぐ育成会 田中 和子

令和元年11月9日（土）、埼玉会館で開催された関ブロ大会に参加しました。

午前は、大会式典と全体会がありました。大会テーマは「この子らを世の光に」でした。ノーマライゼーションの原点に立って！障害をもつ者ともたない者が平等に生活する社会を実現させる考え方、「知的障害者福祉の父」と呼ばれる糸賀一雄氏の著書『この子らを世の光に』の理念にも触れ、年齢と共にぬるま湯に浸かっている私は強い刺激を頂きました。

午後第3分科会（講師：又村あおい）「共生社会で生きることを支えるもの」に参加しました。共生社会とは、支えるための法制度、実現に向けて育成会ができること等、2時間にわたり又村さんの講演を聞きました。権利条約（第19条）・障害者基本法（第1条目的）・障害者差別解消法（イヤナ思いをせずに気持ちよく暮らすことができる地域）などについてこと細かくていねいな解説があり、今後の親亡き後の課題も含め、今すべきことなどについて改めて考えさせられた貴重な時間でした。



挨拶する久保厚子会長



第3分科会での講師 又村あおい氏

笑いと涙の綿祐二氏講演会を開催

総合福祉会館に300人が集まる

土浦市手をつなぐ育成会 渡辺 征

《綿先生の人気の秘密》

私は、昨年の綿祐二先生の講演会に参加することができずに、今年7月に初めて先生の講演を聞く機会に恵まれた。そして、少々おおげさな表現になるが、半分は大笑いし、半分は泣きながら聞かせていただいた。感動の連続で、講演の人気の秘密がわかった。昨年の講演会は、当初、70～80名程度の会場を予定していたところ、200名を超える申込みがあり、主催者側があわてて会場を変更し、駐車場の確保に大わらわだったそうである。

今回7月10日（水）、水戸の総合福祉会館のコミュニティホールには300名近くの出席者が参集した。演題は「障害のある人のために、支援者として親にしてほしいこと・家族としてできること」。綿氏の肩書は、日本福祉大学福祉経営学部 学部長・教授、社会福祉法人陸月会 理事長である。今回は、県育成会研修委員会主催による講演会であった。

《先生のオムツ》

綿氏は、親子6人家族の中で「健常者」は自分だけ（ご両親・3人の兄姉にはそれぞれ障害があった）という特異な環境の中で育ち、“自分のオシメが取れたときから兄姉の介護をしてきた”と冗談で語っている。若くして学生時代に兄姉たちのために障害者施設を立ち上げることで、社会人としてスタートしたとのことである。“障害は私の生活の中ではごく当たり前のことであり、何か特別なことといった感覚はありません”と、先生は話している。

現在、数多くの障害者関連事業所を経営すると同時に、大学教授として学生の指導育成にあたりながら、障害者関係者を対象とする、ユーモアと愛にあふれる実践的な講演活動に東奔西走している日々である。



《先生のポイント》

綿先生の話の重要ポイントは数多くあるが、とくに私自身が関心をもったのは、次の項目である。

- ・「地域共生社会」実現は可能か。その実現のため、何をどうする。
- ・障害者の地域生活の課題を考える。
- ・ライフステージに対応する福祉サービスを考える。
(例：就学期・青年期・壮年期・高齢期、それぞれ何を準備するか)
- ・地域包括型多機能小規模カスタマイズ型入所施設も要検討。
- ・10年先を考える（どこで誰と住むのか、だれの支援を受けるのか、その時の費用は？）等々。

追記：本紙NO139号が発行される直前の12月4日（水）に、石岡市で「地域共生社会を目指して」のテーマで、綿祐二講演会「親なき後も、自分の好きな場所で暮らしたい－障害のある人のために、親としてできること、やっておかなければならないこと－」が石岡市手をつなぐ育成会野ばらの会主催で開催されました。この講演会は、全国手をつなぐ育成会連合会の助成を受け、地域育成会活性化のための研修等事業として行なわれました。

男親4人も情報交換！

— 県手をつなぐ育成会交流会に参加して

石岡市手をつなぐ育成会野ばらの会 渡邊 一男

令和元年9月25日の午前11:00より14:00まで、水戸プラザホテル「レストランローズ」において行なわれた、茨城県手をつなぐ育成会交流会に初めて参加しました。北は日立市から南はつくばみらい市までの、県内9地域の育成会から、事務局を含んで総勢25名の会員が集まりました。

今回、私は石岡市地域から出席し、少人数の男性4名とテーブルを一つにして、昼食をはさみながら歓談しました。

最初に、自己紹介を兼ねて一人一言スピーチを全員でしてから、お互いの情報交換となりました。私の班では、やはり、家族内の障がい者の話が中心で、普段、話せないことを相談できるのが嬉しくて、ついつい長話になってしまいました。

特別支援学校の話や、病気の場合、胃ろう等の鼻チューブや胃に穴を開けてまでは必要なのかとか、自分自身が亡くなってしまった場合に残された子供についてはどうなるか...。グループホームに入所した場合の世話人との相性、信頼がおける後見人の問題等、次から次へと話題はつきませんでした。

私も、NPO法人を同士達と立ち上げて、来年から農福連携施設を開設予定なので、関東周辺の色んな福祉事業所を視察に行き、参考になったことを述べました。

私は、以前から、障がい者雇用の2.2%枠を達成するために、障がい者を大企業等に紹介できる機関があればと思っていたところ、次のような話が聞けました。千葉県の柏にハピネス農園（千葉県の最低賃金＋健康保険＋社会保険＋交通費が支給）があり、親会社のエスプールプラスは、全国に農福連携の農園を17ヵ所運営しているとのこと。息子さんが土浦から柏まで勤務している方の具体的なお話を聞いて、非常に参考になりました。今まで茨城県にはそういう施設が無かったのですが、つくば市に計画中のことで、今後こういう企画があれば、ぜひ参加してみたいと思います。



第6回 全国手をつなぐ育成会連合会

全国大会熊本大会開催される

小美玉市中心障がい児者父母の会 杉山 正美

上記大会が、11月23日（土）・24日（日）の両日、熊本市の熊本城ホールで、盛大に開催されました。大会のスローガン「一人ひとりを認め合う社会の実現～熊本のところを全国に～」のもと、23日は「育つ・学ぶ」「働く」「暮らす」「権利擁護」「地域育成会の活性化」の5分科会と、メルパルク熊本にて懇親会・交流会がありました。

24日は「全体会」として、大会式典・中央情勢報告・記念講演『幸せの企画術』（講師：小山薫堂くんだう氏 放送作家・脚本家）そして、育成会大会宣言が決議され次期開催地（愛媛県）の挨拶が行われ、大会の幕が下ろされました。

私は、茨城県手をつなぐ育成会の皆さまのご支援により全国表彰を受けさせていただくことになり、始めて熊本の地に向かいました。平成28年4月の熊本地震から3年が経ちますが、その後も全国的に自然災害が相次いだこと、今年茨城県内各地を襲った「水害」を考えながら大会に参加しました。そして、二日間を通して熊本のみなさんの復旧・復興を進めてきた道のりで、お互いの絆と一人ひとりを認め合う気持ちの大切さを学びその感謝を発信したいとの思いを、肌で感じることの出来た熊本大会でした。

特別支援学校紹介

茨城県内の特別支援学校を順次紹介していきます

県立石岡特別支援学校（石岡市）

本校は、今年（平成 31（2019）年）4月、つくば特別支援学校、友部特別支援学校、土浦特別支援学校の通学区域の一部を変更し、県南地区の閉校となった中学校跡地（八郷南中学校）を活用し、新たな特別支援学校として開校しました。

西側には筑波山がそびえ、すぐ近くには茨城県フラワーパーク、周囲に果樹園などがあり、晴れた日の深くて突き抜けるような空からもたらされる空気に、心も体も爽やかになります。

知的障害教育を行う特別支援学校として、小学部・中学部・高等部を設置し、児童生徒 154 名（令和元年 5 月 1 日現在）が在籍しています。小美玉市・石岡市・つくば市（旧筑波町）に在住する児童生徒が通ってきています。

旧八郷南中学校から引き継いだ「自主（すすんで）博愛（なかよく）創造（すこやかに）」の校訓のもと、豊かな自然・地域とのつながりの中で、一人一人の個性や可能性を伸ばす教育を目指しています。

本校では、児童生徒の健やかな心や体を育むために、地域資源の有効活用と地域に根ざした教育の推進に取り組んでいます。地域施設（フラワーパーク）の利用では、5月に「開校記念全校歩く会」を実施しました。また、地元の農家さんと連携し、本校の圃場の管理の技術指導を受けたり、農家さんの農場へ児童生徒が校外学習として訪問し収穫体験を行いました。地域の朝日里山学校や森林組合等と協働した交流授業も行っています。また、タブレット端末等のICTを積極的に活用するなど、楽しく学べる授業も進めています。

歩みだしたばかりですが、今後も地域の方と積極的に交流をはかり、また、ご支援をいただきながら、児童生徒一人一人が学ぶ楽しさを実感できる教育環境づくりを行っていきます。



校舎全景～山々に囲まれ、校舎内外から四季の変化を感じることができます



液晶ビジョンを活用した授業



開校記念歩く会～フラワーパークまで全校で歩きました～



地元農家さんの畑での収穫体験

行事予定（1月～3月）

月	日（曜日）	行事予定
3月	10日（火）	「育成会だより」140号 発行
	19日（木）	令和元年度第5回理事会

「いきいき茨城ゆめ大会」台風の影響で中止！

— 20年夏の“パラ”へ

ことしの10月12日（土）～14日（月）に予定されていた第19回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」は、近づきつつある台風19号の影響で、10日、全面的中止が決定しました。参加の用意をしていた全国の選手たちや家族の方々はもとより、長い日時をかけて準備してきた全県の関係者にとっても、誠に残念な結果となってしまいました。最終的に中止を決めた方々にとっては、まさに“苦渋の選択”だったに違いありません。が、その後の台風の被害のひどさを考えると、適切な判断であったと言えるでしょう。

今回、このゆめ大会には、正規の13の個人・団体の競技に加えて、6つの「オープン」競技が行われることになっていました。その1つハンドアーチェリー競技会（つくば市）には、土浦育成会の本人部会からも6名が参加予定でしたが、競技会中止の連絡を受け、落胆の声があがりました。選手予定大橋哲也くんは「楽しみにしていたので残念だけど、台風では仕方がない…」とっていました。

来年2020年夏には、オリンピックに続いてパラリンピックが開催されます。今度は、ゆめ大会のスローガン「翔べ 羽ばたけ そして未来へ」の気持ちを“パラ”に向けていこうではありませんか。



ハンドアーチェリー（身・知）

【ハンドアーチェリー】

会場：東光台体育館
（つくば市東光台）

ハンドアーチェリーとは、ボード（的）に針のついていないピンをあて、得点を競うスポーツで、子どもから高齢者・障害者まで安全に安心して楽しめるよう配慮されています。

令和元年度福祉表彰者

第6回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会熊本大会

9月23日（土）～24日（日） 熊本城ホール
全国手をつなぐ育成会連合会会長表彰
杉山正美（茨城県手をつなぐ育成会 理事）

第69回茨城県社会福祉大会

令和元年10月25日 ヒロサワ・シティー会館（台風19号により中止）
茨城県知事表彰

社会福祉自立更生者 瀬谷 明子（日立市手をつなぐ親の会）
小林 俊也（石岡市手をつなぐ育成会野ばらの会）

茨城県社会福祉協議会会長表彰

社会福祉団体役員 水庭 陽子（日立市手をつなぐ親の会）

編集後記

相次ぐ台風そして豪雨災害。被災された皆様にお見舞い申し上げ、一日も早い復興を祈念いたします。育成会でも義援金の募集をしていますので、ご協力をお願いします。第19回全国障害者スポーツ大会の中止は残念でしたが、また来年に向けて頑張っただけで欲しいと思います。来年こそ良い年になりますように願っています。

（青木 礼子）